



市史へんさん

第 279 号

令和 4 年 6 月 1 日

小松市史編纂担当

へんさんだより

早、一年の折り返しの月を迎えています。1日は「衣替え」です。もう半袖姿が見掛けられますが、暦の上では、1日から、学生の制服は夏服に、和装は単衣(ヒトエ)に衣替えです。

月末の30日は、「夏越の祓(ナゴシハラエ)」があり、神社の境内に置かれた大きな「茅の輪(チノリ)」をくぐり、1年の前半の穢れを祓って心身を清め、残り半年の健康と厄除けを祈ります。「茅の輪」は茅(カヤ)を編んだ輪で、腰につけると疫病を免れるという言い伝えから、大きな輪を全身でくぐるようになったとのこと。このあたりでは、菟橋神社や本折日吉神社で、「茅の輪」が置かれます。第3日曜日の「父の日」の感謝を忘れず、月末は家族揃って、無病息災を祈願して、「茅の輪くぐり」でコロナ撃退も願って、身を清めましょう!!

『小松旧記』に見る水害史料



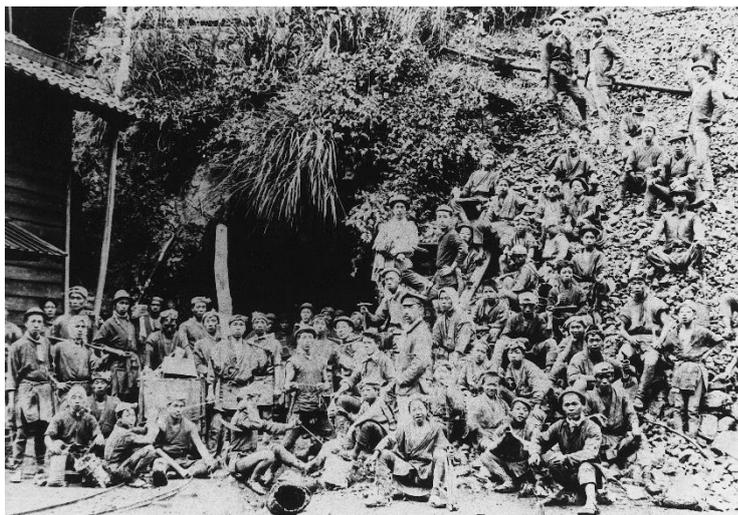
6月の行事にはもう一つ、「入梅(ニュバイ)」があります。立春から数えて135日目を目安に、今年は6月11日になります。気象情報のない昔は、田植えの日を決める時に、梅雨の時期を知ることは重要なことでした。米には6月の雨は恵みの雨と言われますが、江戸期の町会所の記録書『小松旧記』を紐解くと、6~7月に、実に水害が多いことがわかります。当時の農家の人々はどのように水害対策をしたのでしょうか。今後、調べていきます。

年		月日	状況	被害状況
和暦	西暦			
寛文 8 年	1668	6 月 11~12 日	大洪水	土手決潰。泥町・松任町・京町横丁・中町・材木町・西町・東町浸水。
延宝 7 年	1679	7 月 6 日前後連日	大洪水	梯町・泥町・松任町・京町横丁・中町・材木町・東町・西町・寺町床上浸水。
貞享 3 年	1686	7 月 15 日	洪水	手取川氾濫。家屋損害。人畜に被害なし。
元禄 4 年	1691	6 月 4 日	雷雨	大豪雨。石垣・崖の崩れ。
元禄 5 年	1692	6 月 17 日	大雨	豪雨。金沢方面に崖崩れ、橋梁流出。溺死者あり。
享保 14 年	1729	秋の収穫時	風水害	加賀藩領内で米 45 万 2 千余石の減収。2 千余本倒木。2 百余軒崩家。
元文元年	1736	10 月 6 日	風雨	強い雨風。当地の被害少なし。能登・越中方面家屋損傷。
寛延元年	1748	6 月 5~6 日	大洪水	泥町・松任町・中町・西町・東町・新町・新鍛冶町・細工町・土居原町床上浸水。
宝暦 7 年	1757	5 月 28~29 日	洪水	大豪雨。所々の河川氾濫、山崩、家屋損害。当地の被害少なし。
明和 2 年	1765	5 月 11 日	洪水	町中で橋決壊。溺死者 1 名。床上浸水。
明和 5 年	1768	4 月	洪水	手取川氾濫。火釜村堤防決壊。梯川の橋流失。苗代が水下。
安永元年	1772	3 月 7 日	洪水	手取川増水。源兵衛島堤防決壊。被害は甚大ではない。
安永 3 年	1774	6 月 19 日	洪水	各河川増水。加賀藩領内 60 万石減収。
天明 3 年	1783	7 月 6 日~16 日	洪水	泥町・松任町床上浸水。手取川沿岸は家屋流失。人命損傷多し。
寛政元年	1789	6 月 6~7 日	洪水	床上浸水。
文化 5 年	1808	5 月 28~6 月 1 日	洪水	各河川氾濫。大聖寺から小松までが特に甚しい。
文政 3 年	1820	5 月 16 日~6 月 8 日	大雨	大雨降り続き、河川が氾濫。大水になること 5 回。
文政 8 年	1825	8 月 14 日	洪水	泥町・中町・西町・東町・新鍛冶町・細工町・土居原町・八日市地方浸水。
文政 11 年	1828	8 月 9~10・24 日	大風雨	加賀地方で家屋崩壊。船の流失。死者 1 名。小松も甚大な被害。
文政 12 年	1829	10 月 18~22 日	洪水	増水となり、浸水家屋 473 軒。
天保 2 年	1831	6 月 5~6 日	洪水	梯川堤防決壊。泥町・細工町・土居原町・八日市地方床上浸水。
弘化 2 年	1845	7 月 15~17 日	洪水	各河川増水。泥町・松任町・中町・新町・細工町・土居原町浸水。
安政 6 年	1859	8 月 12~13 日	洪水	各河川増水。小松町に浸水家屋。150 石 3 斗の御救米を出す。

『新修 小松市史 資料編 18 近現代』第10章の見どころ

第10章は、社会運動に着目し、労働運動(写真右)、農民運動、住民運動の3節に分け、それぞれの関係資料を収録した。

労働運動は、尾小屋鉱山争議と小松製作所争議があるが、前者は刊本で報告されているため、第1節では、後者の資料を主に扱う。大正15年(1926)から昭和初期の恐慌下では、職員の解雇撤回や解雇手当増額を求めた争議を展開し、敗北に終わるが、終戦直後の生活危機突破手当の支給を求めて繰り広げた昭和22年(1947)の百日戦争では、組合が成果を収め労使協調の組合運動に転換、その資料を掲載する。



第2節では、松方デフレ下で、埼玉県秩父地方で農民運動が起こった(秩父事件)が、小松でも同様の農民騒動が起こっており、郡当局や警察が説諭に奔走して事無きを得た。その記事が当時の自由党の「自由新聞」に載り、新資料として紹介した。戦前の県内では大きな小作争議が無く、農民組合運動も低調だったが、小松では苗代村三谷の小作人が小作料低減のための運動を起こした報告があり、掲載した。小作料は緩和されたが、納米奨励米が増額しており、要求の貫徹とは言い難かった。

第3節は、住民運動として、昭和2年(1927)から4年にかけて、小松・安宅町、牧・板津村の商工業者が小松電気会社に、電気料金値下げを要求する運動を展開したが、その交渉状況を掲載した北國新聞の記事を紹介する。交渉は平行線だったが、小松町会で町営電気構想が浮上すると、事態は急変、会社は値下げを受諾した。

<5月の活動状況>

- ・5月 7・8日 横山本家文書(鉱山)関係資料調査
- ・5月 8日(日) 通史(近現代)部会
- ・5月 12・14・21日 大和善隣館関係資料調査
- ・5月 14・15日 お旅まつり調査
- ・5月 22日(日) 学童疎開聞き取り調査(松崎町)

『新修 小松市史 資料編 18 近現代』DVD付
定価：5,100円
販売所：市史編纂担当・うつのみや・明文堂書店



<6月の活動予定>

- ・6月 18日(土) 通史(生活文化)部会

<6月のカレンダー> 開室時間 10:00~17:00(火~金)/9:00~17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
5/29	5/30	5/31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	7/1	7/2

* は市史編纂担当の事務局は閉室しています。

小松市史編纂担当 (小松市立図書館2階)

- ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町19 芦城公園内
- ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
- ・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

